

仲筋井戸 （ナージカー） 尾の濡れた犬の話

竹富島では、水は島の最も希少で大切な資源です。この島は何度もひどい干ばつに襲われたことがあり、井戸を掘っても水がサンゴの岩盤から染み出る海水で飲めなくなることがよくあります。1976年に石垣から水を引くために敷設された海底送水管は、日々の水汲みの苦労を解消させましたが、命を繋ぐ存在として、島民は井戸をとっても大切にしています。この井戸は、かつてここにあった村にちなんでナージカー（仲筋井戸）と呼ばれ、新年にその年最初の水を汲む若水（わかみず）や新生児の初めての沐浴などの行事に使われています。伝説では、仲筋村を創設した神である新志花重成殿（あらしはなかさなり）の犬が、日照りが続いた時期に尾を濡らしており、村民をこの井戸に導いたといわれています。